会員のひろば

北海道医報では、特定の個人・団体を誹謗、中傷する内容等を除いた幅広い多様性のあるご意見を掲載させていただいております。

ゴンフレナ　ラブラブラブ

札幌市医師会
こころと発達クリニックえるむの木
須見よし乃

ここ２年、私の趣味はガーデニングです。クリニックには狭い庭があって、樹木のほかに草花を植えています。また道路沿いや２階のベランダにプランターを並べており、昼休みや仕事終わりのほか、休診日にも手入れをコツコツやっています。

ガーデニングといっても野菜より花が好きで、毎年株が大きくなる宿根草に加えて、季節に合った１年草を、日当たりや色合いを考えながら、あれこれ植えて育てるのが楽しいのです。失敗することもありますが、思った以上に大きくきれいに育つと達成感があります。

雪解けの時期、積雪の下から秋植えのパンジーが顔を見せた時、消えたと思った宿根草が土の中ら芽吹いた時には感動しました。肌寒い中、埃っぽい風に吹かれながら植えたパンジー、ビオラ、アリッサム、クリサンセマムなど春の花は、５月までは元気に咲いてくれました。でも今年は夏の到来が例年より１か月早く、春の花は軒並み耐えられませんでした。そこで６月には猛暑に耐えてくれそうな夏の花にせっせとチェンジしました。

大型ホームセンターの園芸コーナー、あるいは専門のガーデンショップに行くとまさに百花繚乱、見ているだけでも楽しくなりますが、お値段も結構な幅があります。例えば同じペチュニアでも、100円台で買える苗もあれば500円以上の苗もあります。これはコンビニで買う菓子パンと、道産小麦や天然酵母を使った有名店のパンとの違いみたいなもの？？など、どうでもよいことが頭の中に浮かびます。やはり、丈夫で美しい、そして少し珍しい苗を、コスパよく手に入れたいと思うものです。そうすると、いわゆる「ブランド苗」が視野に入ってきます。

「PW」という植物の国際ブランドがあって、ハイシーズンには様々な種類の花苗が出回ります。国際ブランドというだけあって、ネーミングセンスが独特です。「スーパーサルビアロックンロール」など、テンションも値段も高い苗もあります。（ちなみに買って育てたことはありません。）私は夏の花では千日紅が好きで、今年は「ゴンフレナ　ラブラブラブ」というPWの千日紅を、姿と名前に一目ぼれして買いました。一般的な千日紅も十分かわいいのですが、ゴンフレナラブは別種で、ピンクの色味が明るく、形も少し違います。背が高く、旺盛に分枝して花をたくさんつけます。切り取って飾っても長持ちしますし、切った後からどんどん育っていきます。ドライフラワーにしても縮みや色あせが少なく、とても推せる花です。７月から絶えることなく診察室や休憩室に飾っており、お盆の時期には亡くなった祖母の写真の周りにも飾りました。千日紅といえば仏花のイメージがあるようですが、ゴンフレナラブは繊細でありながら、スイーツのようなポップな明るさがあります。

ゴンフレナは千日紅の学名で、千日紅の花言葉は、「不死」「不朽」「色あせぬ恋」「変わらぬ愛」らしいです。誰が「ラブラブラブ」と形容したのかわかりませんが、あふれる愛のように咲く様は、日々くたびれている私の心に元気を与えてくれています。「ラブラブラブ」というとドリカムの名曲を思い出しますが、そこまで切ない感じはありません。自己満足の世界ですが、ゴンフレナラブに限らず、花々の愛はきっと周りに伝わっているはず、そうだと嬉しい、と思ってガーデニングにいそしんでおります。

暑い暑いと言いつつも、一雨ごとに秋が深まり、日が短くなって、長い冬が到来します。少しでも気持ちが沈まないように、庭が終わったらドライフラワーにしたゴンフレナラブをふんだんに使って、クリスマスリースを作ろうかなと今のうちから考えています。

追記：この原稿を書いている間に、わがツンデレ猫の妨害を何度か受けました。キーボードの上に乗ったり、尻尾で顔をなでたりです。放っておくと、おしりをこちらに向けて、チラ見します。眠いのか、ふてくされているのか。たくさん遊んであげないと、と思った所存でした。